

ずいそう

## 建設機械と私

和田航一



建設会社を定年退職した1995年からもう22年。仕事を教えて頂いた多くの先輩も鬼籍に入られた今、私の記憶している限りの勝手な昔話を綴ってみます。

私が機械屋として建設会社に入社した昭和34年は、終戦から我が国がようやく立ち直り始めた時期で、当時の全国民の目標は「日本再建!」と叫ばれ、荒廃した国土の再建への熱気があふれていました。

配属された施工機械のモータープールは、古びたレンガ造りの旧陸軍兵器廠工場で、重機は米軍払下げブルドーザやショベル、スクレーパ、クローラクレーン、発電機など、太平洋戦線のサイパンや硫黄島などの島々で使われていたと思われる物ばかりでした。古びてはいるが、わずかな整備で信頼性高く、米国製建設機械の優れた技術に驚きました。再生工場では、ブルドーザの転輪、スプロケット・履帯ラグなど摩耗部品肉盛り再生が主な仕事で、手溶接棒のワークが夜遅くまで飛んでいました。

次第に大型土木工事の需要が増しても国産建機は少なく、高価な輸入建機など論外で手持ちの中古外国製ショベル、クレーンブーム、けん引式スクレーパなどをそっくりスケッチして自社工場で造り施工しました。今は当たり前前の油圧式ではなく、ワイヤロープ・ウインチ操作で、原因不明なワイヤーロプの捻れや破断に悩まされました。高張力鋼板では折り曲げプレスでの割れ、溶接の難しさにも苦労しました。

昭和39年東京オリンピックの頃から、下水道工事インフラ整備で手掘式シールド機を自社設計・製作して工場敷地内での圧気施工実験工事などを行いました。



た。その後の機械掘、泥水式、土圧式など我が国のシールド工法技術発展は目覚ましく、東京湾横断道路海底トンネル、英仏海峡トンネルまで、世界中で活躍していることは誇らしく思っています。

山岳トンネルでは、発破・手掘り・鋼支保工・木矢板も経験しましたが、NATMコンクリート吹付け、全断面機械掘削などまたたく間に工法が変わり、それらの機械も開発しました。地盤改良技術では、軟弱地盤での高速道路盛土地盤、海上空港埋立地盤、東京湾横断道路での海ホタル人工島土砂投入埋立地盤などです。退職した後の東日本大地震では、関東地方でも激しく揺れて浦安などで地盤液化被害が報じられ、心配になって後輩に電話しましたが、「情報がないから無事なんでしょう…」との返事で、今でも液状化はなかったと信じています。

海外建設技術の視察・導入も盛んになり、海外建設機械化視察団などに同業他社の人と参加しました。英国では社命により、その機会を利用して海外技術導入調査のためグループを一時抜け出して〇〇社へ行き、調査を終え列車で皆の待つホテルへ単身戻る列車を間違えて夜遅く見知らぬ駅で降り、怪しげな酒場で過ごし、酒場のオヤジに頼んだ深夜タクシー運転手は恐ろしい入れ墨で、ホテルに着くまで怖い思いをしながら早朝に皆に合流できてホッとしました。サンフランシスコでは他社の仲間と二人で早朝にホテルを抜け出して、爽快な朝霧の中、ベイブリッジをマラソンで往復しました。海外旅行にまだ慣れず、外国語に自信がない頃の旅の思い出です。

添付した写真は、昭和26年に米軍払下げブルドーザ(米国キャタピラ社製)でエンジン始動もエンジン、排土板はウインチ・ロープ操作し、全国の土木現場で活躍してくれた老兵です。

今回戴いた建設機械施工誌を拝見すると、我が国の建設機械施工技術は私らの頃と大きく変わっていることを強く感じ、今や世界一の建設機械生産と施工技術を保有する国であることを知り、寄稿の機会を戴いたことに感謝します。